

りょうげもん 新しい領解文に関する問いかけ

そもそも領解文ってなんですか？



阿弥陀さまのお救いを「私はこのように受け取っています」（信心）と、一人一人が表明する事を「領解出言」（りょうげしゅつごん）と言います。各人がそれぞれに出言していたのですが、やがてそれが整理され異口同音に出言できるようになったのが『領解文』です。これは今からおおよそ 500 年前の蓮如上人がお作りなると伝えられています。

さまざまな問題を抱えたものがなぜ発布されたのでしょうか？

『新しい領解文』は、十分な検討と準備ができないままに大急ぎで作成・発布されました。そして検討と準備の不足を隠すため、ご門主が発布したという権威が理由にされたように見えます。結果として議論や反対意見が排除されてしまいました。



『新しい領解文』にどのように向き合うべきでしょうか？



『新しい領解文』のご発布をご縁とすることで、自らの領解（ご信心）を問い直すことが大切だと考えます。そして冷静に『新しい領解文』について深く学びたいものです。

もっと詳しく知りたい、考えたい方へ



新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）の情報まとめ

「新しい領解文を考える会」運営チームによってまとめられたものです。本パンフレットに掲載されている内容以外に、オンラインにて開催された「新しい領解文を考えるシンポジウム」の動画など、オンラインにて公開されている情報をまとめて紹介をしています。



新しい「領解文」を考えるページ

「新しい領解文を考える会」運営チームによって開かれている Facebook ページです。新しい領解文を巡るアンケートを行ったり、最新情報をまとめて更新していきます。本ページはお問合せの窓口も兼ねておりますので、本パンフレットに関わるご質問などはこちらまでお寄せください。

みんなで、
りょうげもん
『新しい「領解文」
（浄土真宗のみ教え）』
を考えてみよう。

問題点があるの？



どんな内容なの？



唱和しなきゃダメ？



浄土真宗の僧侶、門信徒。みんなが当事者です。

『領解文』は、本願寺の第八代蓮如上人が作られたと伝えられる浄土真宗の信仰表現で、長きにわたって浄土真宗の聖典として大切にされてきました。（『註釈版聖典』1226 頁）

また、『新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）』は、2023（令和5）年1月16日に、現在の本願寺派のご門主、専如上人からご消息（お手紙）として発布されました。その内容は新しく作られたもので、従来の『領解文』の現代語訳ではありません。

そして発布以来、この『新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）』は問題点が指摘されるなど、僧侶や門信徒の間に混乱を生んでいます。実際に、どのような問題点があるのか、私達はどのように受け止めたらいのか、共に考えてみましょう。

『新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)』 5つの問題点

※ 便宜上、以下のように表記しています
 ・従来の『領解文』=『領解文』
 ・『新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)』=『新しい領解文』

1 表題の問題

『領解文』は、長きにわたり広く用いられているものです。ここに「新しい」と冠された領解文ができたことで、混乱が生じています。



2 表現形式の問題

『新しい領解文』は、唱和を前提として、詩の形で作られました。しかし韻文でありながら、語数や文末表現に統一感がなく、唱えにくく感じます。



3 内容の問題

ここでは3つを取り上げます。

1つには、「私の煩惱と仏のさとりは 本来ひとつゆえ」の文言が、私が仏であると読めてしまいます。私が仏であれば、阿弥陀さまの救いが必要ないことになります。 **A**

2つには、「尊いお導き」を親鸞聖人と歴代宗主に限定しており、一人一人がよろこんできた様々なご縁や師が除かれています。 **B**

3つには、「み教えを依りどころに生きる者」として一般的な道徳が救いの条件のように見える部分があり、善人のみが救われると誤解されます。 **C**

●新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)

なまあみだぶつ
南無阿弥陀仏
「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
わたし ぼんのう ほとけ 私の煩惱と仏のさとりは ほんらいひとつゆえ **A**
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて
この愚身をまかす このままで
すく と 救い取られる 自然の浄土
ぶつとんほうしや ねんぶつ 仏恩報謝の お念仏

これもひとえに
しゅうそしんらんしやうにん 宗祖親鸞聖人と **B**
ほうとう でんしやう 法灯を伝承された 歴代宗主の
とうと みちび 尊いお導きに よるものです

みおしをよりどころに生きるもの となり
すこ たら ほな 少しずつ 執われの心を 離れます
い かんしゃ 生かされていることに 感謝して **C**
むさぼり いかりに 流されず
おだ かお やさ ことば 穏やかな顔と 優しい言葉
よろこ かな わか あ 喜びも 悲しみも 分かち合い
ひび せいいつぱい つとめます

4 制定過程の問題

ご門主がご消息を發布するには、宗務の執行機関「総局」が作成したご消息案、(上申書)を、浄土真宗の教義に沿っているかどうかを宗派最高位の学者5名(勸学寮員)が確かめて同意し、「総局」が法規に基づいた手続きを行う必要があります。

しかし、1、2、3で述べた問題点が未解決の状態、手続きが順当に行われたのが甚だ疑問です。また發布された後の宗会(議会)で、手続きが不透明なまま拝読・唱和を推進することの是非が問われましたが、十分な議論がされないまま宗会議員の多数決による議決で今に至っています。



5 唱和の問題

そもそも領解とは、一人一人の信心の表明です。しかし『新しい領解文』は、みんなで唱和することが推奨されています。様々な問題を抱えたまま唱和を推奨することは、本来の信心の表明とはかけ離れています。

